

「心のバリアフリーガイドライン（素案）」及び「情報バリアフリーガイドライン（素案）」に対する主な御意見の概要と都の考え方

区分	主な御意見の概要	都の考え方
心	当事者の社会参加は、理解促進のためにも重要。学校や地域での学習会などへの参加を強調してほしい。	心のバリアフリーの取組を効果的に進めるためには、実施に当たって、当事者が参加することは大変重要であると認識しています。 そのため、ガイドラインの中でも、基本的考え方や各取組のポイントにおいて、そのことを明記しています。 なお、情報バリアフリーの取組においても同様であることから、基本的考え方に明記しています。
心	「だれでもトイレ」など、本来必要としている人が円滑に使えていない現状を是正してもらいたい。	ガイドラインを活用しながら、区市町村や事業者における心のバリアフリーに向けた取組を促進するとともに、都においても、施設・設備の適正利用や障害者等の理解促進に向けた普及啓発により一層取り組んでいきます。
情報	「障害特性等に応じた情報面での必要な配慮」については、ここに掲げているもの以外にも様々なものがある。 また、同じ障害などでも個人差もあることを理解してほしい。	まずは、情報入手が困難な人がどのような配慮を必要としているかを把握できるよう、特性等に応じた基本的な配慮事項を記載しました。 その上で、本人に直接確認をすることで、個々の状態に合わせて対応することが重要であることを明記しています。 なお、御意見を踏まえて、広く周知すべき配慮事項については、記載したもの以外でもできる限り掲載できるよう検討します。
心 情報	語句でわかりにくい表現がある。	説明や具体例を補足します。